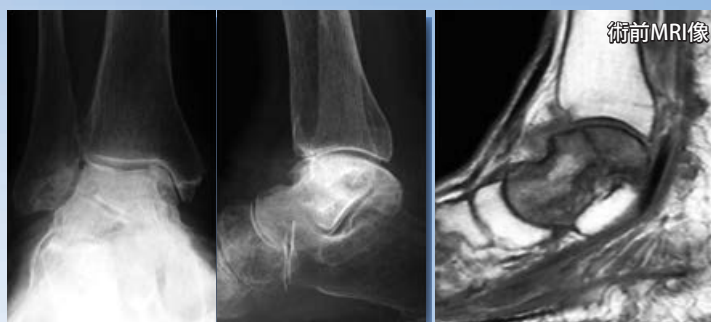


# カスタムメイド 人工距骨



一般的名称:人工骨インプラント  
バイオセラム人工骨【医療機器承認番号:15900BZZ01949000】

ご使用にあたっては、骨、関節部の欠損部の形態的、機能的な修復、もしくは関節置換等に適応をよく考慮してください。



術前MRI像

術前



術後4年

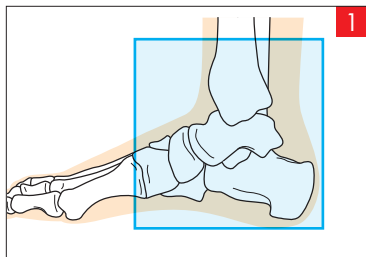
症例: 72歳 女性 特発性距骨壊死

監修 奈良県立医科大学名誉教授 高倉 義典 先生  
奈良県立医科大学整形外科教授 田中 康仁 先生

## 参考文献

Akira Taniguchi, Yoshinori Takakura, Yasuhito Tanaka, Hiroaki Kurokawa, Kiyonori Tomiwa, Takenori Matsuda, Tsukasa Kumai, Kazuya Sugimoto.  
An Alumina Ceramic Total Talus Prosthesis for Osteonecrosis of the Talus.  
J Bone Joint Surg Am. 2015 ; 97 : 1348-53.

設計作業に必要なCT画像データを取得するため、決められた条件に従って、CTの撮影をしていただく必要があります。



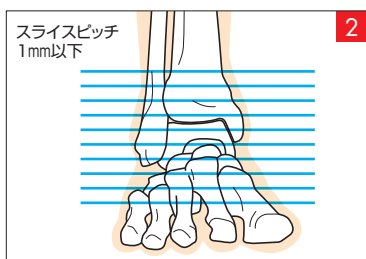
## 1 撮影範囲の指定

撮影部位は両足(患側・健側)の撮影をお願いします。撮影領域(FOV)は両足が入る適切なサイズを指定してください。250mmを目安とし、足指先は不要です。

Z方向は踵骨下端から、足関節を越えて、脛骨下端より約10cm近位までの範囲で撮影してください。CT撮影時の患者さんの肢位は、足親指先が両足ともできるだけ上方を向くような肢位を指定してください。また、撮影中は決して動かないように指導してください。



健側の撮影が困難な場合は、監修者のアドバイスを受けてください。



## 2 撮影条件の選択

スライス厚及びスライスピッチは1mm以下としてください。

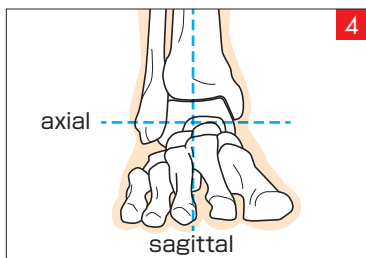
CT装置によっては双方とも1mmの撮影ができない場合があります。その際は最大3mmとし、できるだけそれ以下になるように指定してください。



## 3 再構成関数の選択

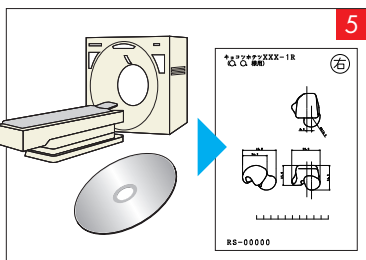
撮影したデータの再構成関数は、NORMALまたはBONEを指定してください。

再構成関数は、CT装置により異なる場合があります。その際は適切な関数を指定してください。



## 4 画像の再構成と保存

transverse(axial)で撮影したCT画像データ以外に、sagittalの画像が構成できれば両方の画像データを保存してください。ただし、スライス厚及びスライスピッチが1mmより大きい場合はsagittalの画像データも必ず保存してください。rawデータは必要ありません。



## 5 撮影した画像の保存

撮影したCT画像データをDICOM形式にて、CD-Rに非圧縮の状態で保存してください。また、形状確認用に、製品のテンプレートを作成します。両側の正面・側面単純X線像があれば、一緒に保存してください。また、オリジナルデータは、製作が完了するまで保管してください。



お預かりする画像データは患者さんの個人情報であり、医療機関により、その取り扱い方が異なる場合がありますので確認してください。



画像データの保存形式によっては製作できない場合があります、あらかじめご使用のCT装置や記録媒体などのハードウェア環境について当社までお問い合わせください。



京セラメディカル株式会社

本社 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8450  
<https://www.kyocera-medical.co.jp>

製品に関する詳細な情報や領域ごとの最新情報など、会員限定のコンテンツが閲覧できます。また、会員登録が完了してなくてもカタログなどの一部の情報は、「医師」「看護師」「その他医療従事者」から閲覧できます。

詳しくはこちら ▶



2025年10月時点の情報です。  
バイオセラムは 京セラメディカル株式会社の登録商標です。  
掲載情報を無断で複製、転載することを禁じます。

BCZT03501  
251001M [M-102-5] 00013 [Ver.2.0]  
© 2025 KYOCERA Medical Corporation